

# 1 素材需給の動向

## (1) 素材需要量

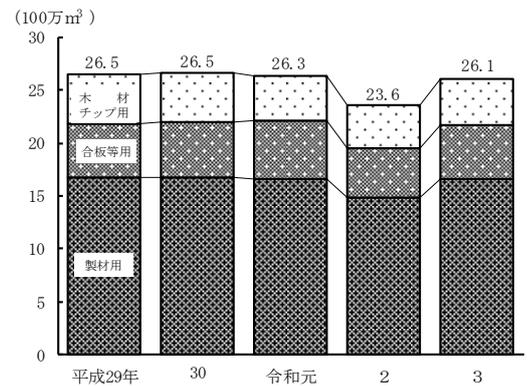
令和3年の素材需要量は2,608万5千 $m^3$ で、前年に比べ253万5千 $m^3$ （10.8%）増加した。これを需要部門別にみると、製材用は1,665万 $m^3$ で、前年に比べ179万9千 $m^3$ （12.1%）、合板等用は509万3千 $m^3$ で、同46万7千 $m^3$ （10.1%）、木材チップ用は434万2千 $m^3$ で、同26万9千 $m^3$ （6.6%）それぞれ増加した。この結果、需要部門別の構成割合は、製材用が63.8%、合板等用が19.5%、木材チップ用が16.6%となった（表1、図1）。

表1 需要部門別素材需要量

区 分	計	単 位：千 $m^3$		
		製材用	合板等用	木 材 チ ッ プ 用
令和2年	23,550	14,851	4,626	4,073
<b>3</b>	<b>26,085</b>	<b>16,650</b>	<b>5,093</b>	<b>4,342</b>
対前年比 (%)	110.8	112.1	110.1	106.6
構 成 比 (%)				
令和2年	100.0	63.1	19.6	17.3
<b>3</b>	<b>100.0</b>	<b>63.8</b>	<b>19.5</b>	<b>16.6</b>

注：1 素材需要量とは、製材工場、合板工場及び木材チップ工場への素材の入荷量である。  
2 数値及び構成比については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある（以下の図表において同じ。）。

図1 素材需要量の推移



## (2) 素材供給量

素材供給量のうち、国産材は2,184万7千 $m^3$ で、前年に比べ196万5千 $m^3$ （9.9%）、輸入材は423万8千 $m^3$ で、同57万 $m^3$ （15.5%）それぞれ増加した。この結果、素材供給量に占める国産材の割合は83.8%で、前年に比べ0.6ポイント低下した（表2、図2）。

図2 素材供給量及び国産材供給割合の推移

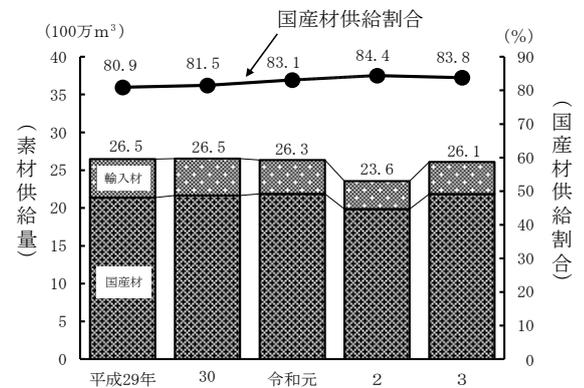


表2 需要部門別、材種別素材供給量

区 分	計	国 産 材				輸 入 材				
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	米材	北洋材	ニュージーランド材	
									その他	その他
令和2年										
計	23,550	19,882	18,037	1,845	3,668	103	2,841	270	322	132
製材用	14,851	11,615	11,499	116	3,236	34	2,557	210	303	132
合板等用	4,626	4,195	4,183	12	431	69	284	60	18	0
木材チップ用	4,073	4,072	2,355	1,717	1	0	0	0	1	-
令和3年										
計	26,085	21,847	20,088	1,759	4,238	49	3,446	213	359	171
製材用	16,650	12,861	12,722	139	3,789	37	3,057	190	346	159
合板等用	5,093	4,661	4,643	18	432	12	384	23	13	0
木材チップ用	4,342	4,325	2,723	1,602	17	-	5	0	0	12
対前年比 (%)										
計	110.8	109.9	111.4	95.3	115.5	47.6	121.3	78.9	111.5	129.5
製材用	112.1	110.7	110.6	119.8	117.1	108.8	119.6	90.5	114.2	120.5
合板等用	110.1	111.1	111.0	150.0	100.2	17.4	135.2	38.3	72.2	nc
木材チップ用	106.6	106.2	115.6	93.3	1,700.0	nc	nc	nc	0.0	nc
構成比 (%)										
計	100.0	83.8	77.0	6.7	16.2	0.2	13.2	0.8	1.4	0.7
製材用	100.0	77.2	76.4	0.8	22.8	0.2	18.4	1.1	2.1	1.0
合板等用	100.0	91.5	91.2	0.4	8.5	0.2	7.5	0.5	0.3	0.0
木材チップ用	100.0	99.6	62.7	36.9	0.4	-	0.1	0.0	0.0	0.3

注：素材供給量とは、素材需要量（製材工場、合板工場及び木材チップ工場への素材の入荷量）をもって供給量としている。

ア 国産材供給量

国産材供給量（全国計のみ素材生産量と等しい。）を針葉樹、広葉樹別にみると、針葉樹は2,008万8千m<sup>3</sup>で、前年に比べ205万1千m<sup>3</sup>（11.4%）増加した。

これを樹種別にみると、素材供給量の6割弱を占めるすぎは1,291万7千m<sup>3</sup>で、前年に比べ125万4千m<sup>3</sup>（10.8%）、ひのきは307万9千m<sup>3</sup>で、同35万7千m<sup>3</sup>（13.1%）、えぞまつ・とどまつは119万6千m<sup>3</sup>で、同26万4千m<sup>3</sup>（28.3%）それぞれ増加し、からまつは198万7千m<sup>3</sup>で、同2万1千m<sup>3</sup>（1.0%）、あかまつ・くろまつは52万9千m<sup>3</sup>で、同4万1千m<sup>3</sup>（7.2%）それぞれ減少した。

また、広葉樹は175万9千m<sup>3</sup>で、前年に比べ8万6千m<sup>3</sup>（4.7%）減少した（表3、図3）。

図3 樹種別素材供給量の推移

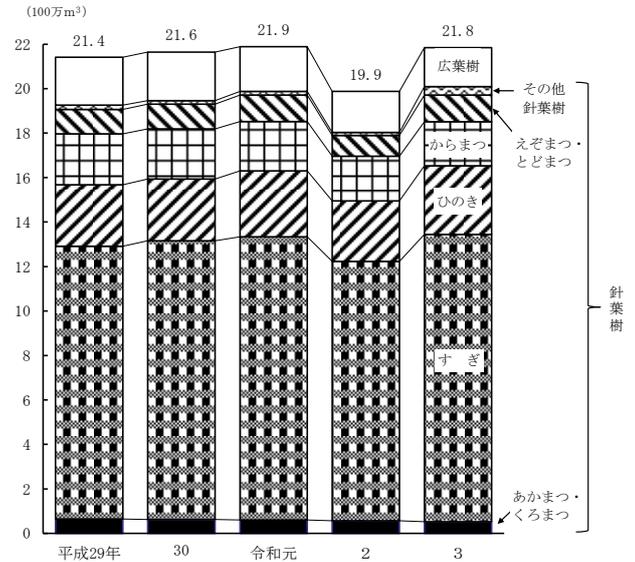


表3 需要部門別、樹種別素材供給量

区分	計	針葉樹							広葉樹
		小計	あかまつ・くろまつ	すぎ	ひのき	からまつ	えぞまつ・とどまつ	その他	
令和2年									
計	19,882	18,037	570	11,663	2,722	2,008	932	142	1,845
製材用	11,615	11,499	114	7,841	2,014	894	592	44	116
合板等用	4,195	4,183	190	2,502	448	823	200	20	12
木材チップ <sup>※</sup> 用	4,072	2,355	266	1,320	260	291	140	78	1,717
令和3年									
計	21,847	20,088	529	12,917	3,079	1,987	1,196	380	1,759
製材用	12,861	12,722	100	8,630	2,275	962	714	41	139
合板等用	4,661	4,643	195	2,822	552	741	303	30	18
木材チップ <sup>※</sup> 用	4,325	2,723	234	1,465	252	284	179	309	1,602
対前年比(%)									
計	109.9	111.4	92.8	110.8	113.1	99.0	128.3	267.6	95.3
製材用	110.7	110.6	87.7	110.1	113.0	107.6	120.6	93.2	119.8
合板等用	111.1	111.0	102.6	112.8	123.2	90.0	151.5	150.0	150.0
木材チップ <sup>※</sup> 用	106.2	115.6	88.0	111.0	96.9	97.6	127.9	396.2	93.3
構成比(%)									
計	100.0	91.9	2.4	59.1	14.1	9.1	5.5	1.7	8.1
製材用	100.0	98.9	0.8	67.1	17.7	7.5	5.6	0.3	1.1
合板等用	100.0	99.6	4.2	60.5	11.8	15.9	6.5	0.6	0.4
木材チップ <sup>※</sup> 用	100.0	63.0	5.4	33.9	5.8	6.6	4.1	7.1	37.0

注：素材供給量とは、国産材である素材についてその入荷元である都道府県で生産されたものとして各都道府県値を集計し、全国値については都道府県計値の積算により算出した結果である。

イ 輸入材供給量

輸入材供給量を産地材別にみると、輸入材の8割強を占める米材は344万6千 $m^3$ で、前年に比べ60万5千 $m^3$  (21.3%)、ニュージーランド材は35万9千 $m^3$ で、同3万7千 $m^3$  (11.5%)それぞれ増加し、北洋材は21万3千 $m^3$ で、同5万7千 $m^3$  (21.1%)、南洋材は4万9千 $m^3$ で、同5万4千 $m^3$  (52.4%)それぞれ減少した(表4、図4)。

また、製材用素材の輸入材のうち半製品入荷量は37万4千 $m^3$ で、前年に比べ1千 $m^3$  (0.3%)減少した(表5)。

図4 輸入材供給量の推移

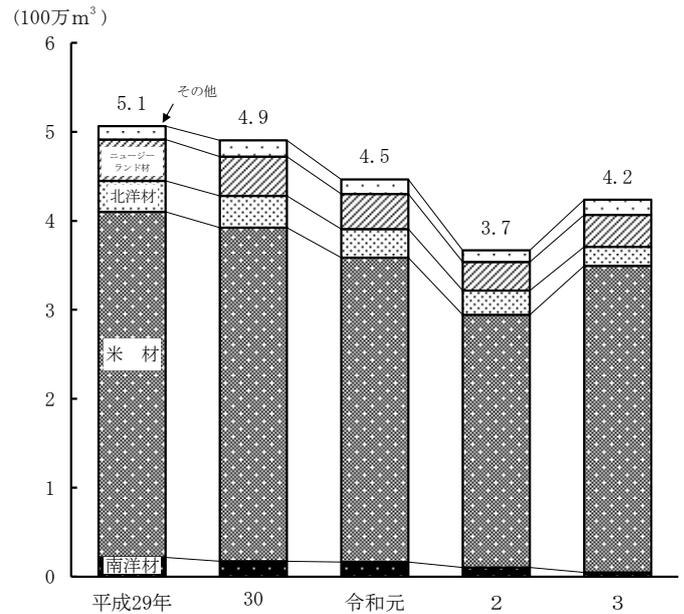


表4 輸入材供給量

区 分	計	単位: 千 $m^3$				
		南洋材	米 材	北洋材	ニュージーランド材	その他
令和2年	3,668	103	2,841	270	322	132
<b>3</b>	<b>4,238</b>	<b>49</b>	<b>3,446</b>	<b>213</b>	<b>359</b>	<b>171</b>
対前年比 (%)	115.5	47.6	121.3	78.9	111.5	129.5
構 成 比 (%)						
令和2年	100.0	2.8	77.5	7.4	8.8	3.6
<b>3</b>	<b>100.0</b>	<b>1.2</b>	<b>81.3</b>	<b>5.0</b>	<b>8.5</b>	<b>4.0</b>

表5 製材用素材の輸入材のうち半製品入荷量

区 分	計	単位: 千 $m^3$				
		南洋材	米 材	北洋材	ニュージーランド材	その他
令和2年	375	3	62	184	14	112
<b>3</b>	<b>374</b>	<b>2</b>	<b>181</b>	<b>116</b>	<b>9</b>	<b>66</b>
対前年比 (%)	99.7	66.7	291.9	63.0	64.3	58.9
構 成 比 (%)						
令和2年	100.0	0.8	16.5	49.1	3.7	29.9
<b>3</b>	<b>100.0</b>	<b>0.5</b>	<b>48.4</b>	<b>31.0</b>	<b>2.4</b>	<b>17.6</b>

## 2 木材産業の動向

### (1) 製材

#### ア 製材工場数及び製材用動力の出力数

製材工場数は3,948工場で、前年に比べ167工場(4.1%)減少した。

これを製材用動力の出力階層別にみると、7.5~75.0kW未満の階層では減少し、それ以外の階層では増加した。

製材用動力の総出力数は73万7,633kWで、前年に比べ137,389kW(22.9%)増加した。

1工場当たりの出力数は186.8kWで、前年に比べ40.9kW(28.0%)増加した(表6、図5)。

表6 製材工場数及び製材用動力の出力数(各年12月31日現在)

区 分	単 位	令和2年	3	対前年比	構成比
				%	%
工場数計	工場	4,115	3,948	95.9	100.0
7.5~75.0kW未満	〃	2,414	2,100	87.0	53.2
75.0~300.0	〃	1,261	1,322	104.8	33.5
300.0kW以上	〃	440	526	119.5	13.3
うち1,000.0kW以上	〃	72	93	129.2	2.4
総出力数	kW	600,244	737,633	122.9	-
1工場当たり出力数	〃	145.9	186.8	128.0	-

#### イ 製材用素材消費量

製材用素材消費量は1,653万5千m<sup>3</sup>で、前年に比べ155万6千m<sup>3</sup>(10.4%)増加した。1工場当たりの素材消費量は4,188m<sup>3</sup>で、前年に比べ548m<sup>3</sup>(15.1%)増加した(表7、図6)。

表7 製材用動力の出力階層別素材消費量

区 分	単 位	令和2年	3	対前年比	構成比
				%	%
計	千m <sup>3</sup>	14,979	16,535	110.4	100.0
7.5~75.0kW未満	〃	818	858	104.9	5.2
75.0~300.0	〃	2,931	3,162	107.9	19.1
300.0kW以上	〃	11,230	12,515	111.4	75.7
うち1,000.0kW以上	〃	6,771	7,190	106.2	43.5
1工場当たり消費量	m <sup>3</sup>	3,640	4,188	115.1	-

図5 製材工場の出力階層別構成割合(令和3年)

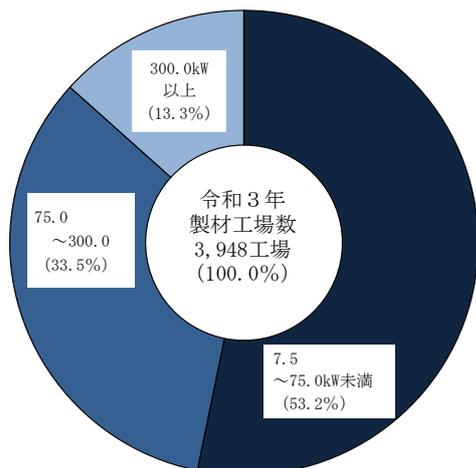
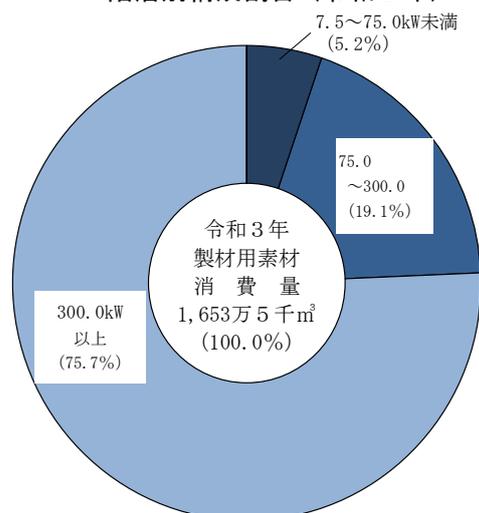


図6 製材用素材消費量の出力階層別構成割合(令和3年)



ウ 製材用素材入荷量

(ア) 製材用素材入荷量は、1,665 万 m<sup>3</sup>で、前年に比べ 179 万 9 千 m<sup>3</sup> (12.1%) 増加した。

これを国産材、輸入材別にみると、国産材の入荷量は 1,286 万 1 千 m<sup>3</sup>で、前年に比べ 124 万 6 千 m<sup>3</sup> (10.7%) 増加し、輸入材の入荷量は 378 万 9 千 m<sup>3</sup>で、同 55 万 3 千 m<sup>3</sup> (17.1%) 増加した。

この結果、製材用素材入荷量に占める国産材の割合は 77.2%で、前年に比べ 1.0 ポイント低下した (表 8、図 7)。

図 7 製材用素材入荷量及び国産材割合の推移

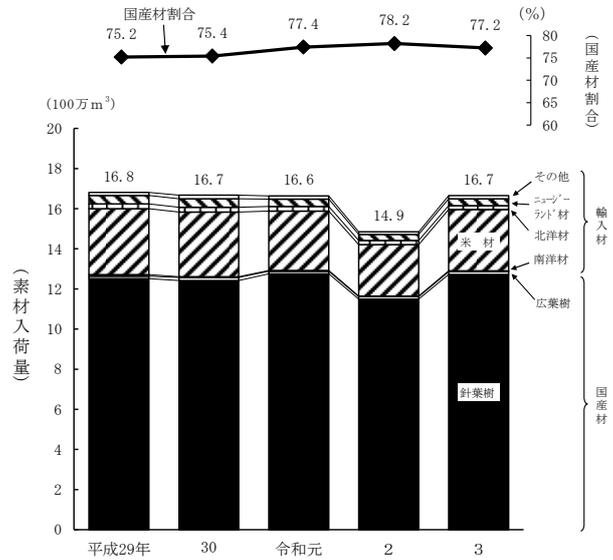


表 8 材種別製材用素材入荷量

単位：千 m<sup>3</sup>

年次	計	国産材			輸入材					
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他
令和2年	14,851	11,615	11,499	116	3,236	34	2,557	210	303	132
3	16,650	12,861	12,722	139	3,789	37	3,057	190	346	159
対前年比 (%)	112.1	110.7	110.6	119.8	117.1	108.8	119.6	90.5	114.2	120.5
構成比 (%)										
令和2年	100.0	78.2	77.4	0.8	21.8	0.2	17.2	1.4	2.0	0.9
3	100.0	77.2	76.4	0.8	22.8	0.2	18.4	1.1	2.1	1.0

注：本調査においては、製材用素材入荷量は製材用の素材需要量（素材供給量）としているため一致する。

(イ) 素材の入荷があった製材工場は 3,892 工場で、前年に比べ 175 工場 (4.3%) 減少した。

これを入荷類型別にみると、「国産材のみ」は 3,138 工場で、前年に比べ 99 工場 (3.1%)、「国産材と輸入材」は 607 工場で、同 46 工場 (7.0%)、「輸入材のみ」は 147 工場で、同 30 工場 (16.9%) それぞれ減少した。

入荷量でみると、「国産材のみ」は 1,174 万 4 千 m<sup>3</sup>で、前年に比べ 90 万 2 千 m<sup>3</sup> (8.3%)、「国産材と輸入材」は 312 万 2 千 m<sup>3</sup>で、同 76 万 6 千 m<sup>3</sup> (32.5%)、「輸入材のみ」は 178 万 4 千 m<sup>3</sup>で、同 13 万 1 千 m<sup>3</sup> (7.9%) それぞれ増加した (表 9)。

表 9 製材用動力の入荷類型別製材工場数及び入荷量

年次	計		国産材のみ		国産材と輸入材		輸入材のみ	
	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量
令和2年	4,067	14,851	3,237	10,842	653	2,356	177	1,653
3	3,892	16,650	3,138	11,744	607	3,122	147	1,784
対前年比 (%)	95.7	112.1	96.9	108.3	93.0	132.5	83.1	107.9
構成比 (%)								
令和2年	100.0	100.0	79.6	73.0	16.1	15.9	4.4	11.1
3	100.0	100.0	80.6	70.5	15.6	18.8	3.8	10.7

注：工場数は、製材用素材の入荷のあった工場数である。

エ 製材品出荷量

製材品出荷量は909万1千 $m^3$ で、前年に比べ88万8千 $m^3$ （10.8%）増加した。

これを用途別にみると、8割を占める建築用材は727万7千 $m^3$ で、前年に比べ63万1千 $m^3$ （9.5%）、土木建設用材は40万6千 $m^3$ で、同1万1千 $m^3$ （2.8%）、木箱仕組板・こん包用材は114万6千 $m^3$ で、同17万3千 $m^3$ （17.8%）、家具建具用材は8万4千 $m^3$ で同2万1千 $m^3$ （33.3%）それぞれ増加した。

また、人工乾燥材出荷量は418万7千 $m^3$ で、前年に比べ36万2千 $m^3$ （9.5%）増加した。

製材品の出荷量に占める人工乾燥材出荷量の割合は46.1%で、前年に比べ0.5ポイント低下した（表10、図8、図9）。

図8 用途別製材品出荷量の推移

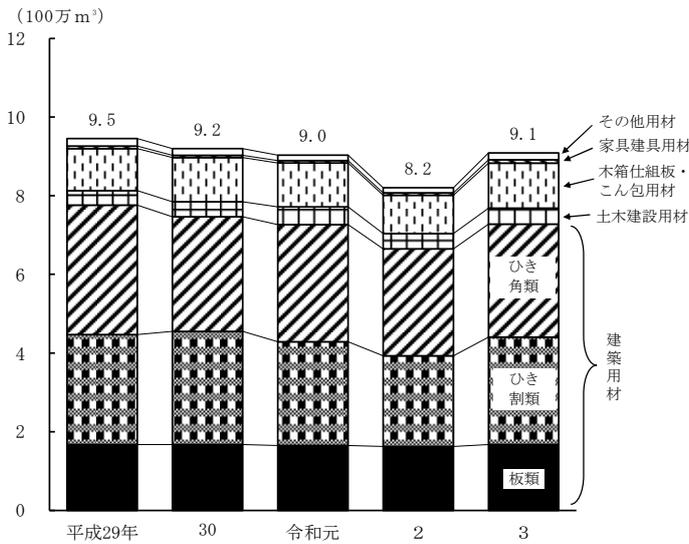


図9 人工乾燥材出荷量及び製材品出荷量に占める人工乾燥材出荷量の割合の推移

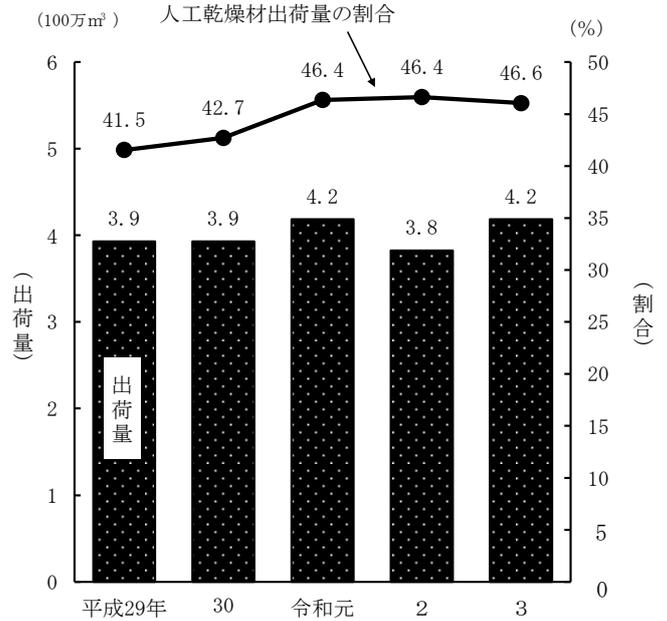


表10 用途別製材品出荷量

単位: 千 $m^3$

年次	計	建築用材					土木建設用材	木箱仕組板・こん包用材	家具建具用材	その他用材
		人工乾燥材	小計	板類	ひき割類	ひき角類				
令和2年	8,203	3,825	6,646	1,625	2,303	2,718	395	973	63	126
3	9,091	4,187	7,277	1,673	2,731	2,873	406	1,146	84	178
対前年比 (%)	110.8	109.5	109.5	103.0	118.6	105.7	102.8	117.8	133.3	141.3
構成比 (%)										
令和2年	100.0	46.6	81.0	19.8	28.1	33.1	4.8	11.9	0.8	1.5
3	100.0	46.1	80.0	18.4	30.0	31.6	4.5	12.6	0.9	2.0

(2) 合単板及びLVL

ア 合単板工場数

合単板工場数は158工場で、前年に比べ15工場(8.7%)減少した。

これを工場類型別にみると、「単板のみ」を生産している工場は前年に比べ2工場(13.3%)、「普通合板と特殊合板」を生産している工場は同2工場(200.0%)それぞれ増加し、「普通合板のみ」を生産している工場は同3工場(9.1%)、「特殊合板のみ」を生産している工場は同16工場(12.9%)それぞれ減少した(表11)。

表11 工場類型別合単板工場数(各年12月31日現在)

単位：工場					
区分	計	単板のみ	普通合板のみ	普通合板と特殊合板	特殊合板のみ
令和2年	173	15	33	1	124
3	158	17	30	3	108
対前年比(%)	91.3	113.3	90.9	300.0	87.1
構成比(%)					
令和2年	100.0	8.7	19.1	0.6	71.7
3	100.0	10.8	19.0	1.9	68.4

イ 単板製造用素材入荷量

単板製造用素材の入荷量は509万3千m<sup>3</sup>で、前年に比べ46万7千m<sup>3</sup>(10.1%)増加した。

これを国産材、輸入材別にみると、国産材は466万1千m<sup>3</sup>で、前年に比べ46万6千m<sup>3</sup>(11.1%)、輸入材は43万2千m<sup>3</sup>で同1千m<sup>3</sup>(0.2%)それぞれ増加した。

この結果、単板製材用素材入荷量に占める国産材の割合は91.5%となり、前年に比べ0.8ポイント上昇した(表12、図10)。

図10 単板製造用素材入荷量及び国産材割合の推移

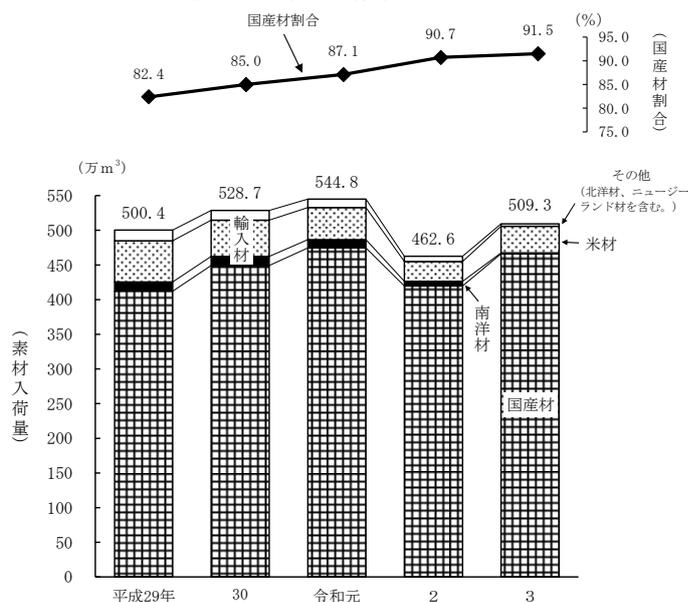


表12 材種別単板製造用素材入荷量

		単位：千m <sup>3</sup>										
年次	計	国産材			輸入材							
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	針葉樹	南洋材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他	
令和2年	4,626	4,195	4,183	12	431	359	69	284	60	18	0	
3	5,093	4,661	4,643	18	432	247	12	384	23	13	0	
対前年比(%)	110.1	111.1	111.0	150.0	100.2	68.8	17.4	135.2	38.3	72.2	nc	
構成比(%)												
令和2年	100.0	90.7	90.4	0.3	9.3	7.8	1.5	6.1	1.3	0.4	0.0	
3	100.0	91.5	91.2	0.4	8.5	4.8	0.2	7.5	0.5	0.3	0.0	

注：本調査においては、単板製造用素材入荷量は合板等用(合板用及びLVL用)の素材需要量(素材供給量)としているため一致する。

ウ 単板消費量

単板消費量は385万7千 $m^3$ で、前年に比べ22万4千 $m^3$ （6.2%）増加した。

これを用途別にみると、合板用は337万8千 $m^3$ で、前年に比べ5万9千 $m^3$ （1.8%）、LVL用は47万9千 $m^3$ で、同16万5千 $m^3$ （52.5%）それぞれ増加した（表13）。

表13 単板消費量

単位：千 $m^3$			
区 分	計	合板用	LVL用
令和2年	3,633	3,319	314
<b>3</b>	<b>3,857</b>	<b>3,378</b>	<b>479</b>
対前年比（%）	106.2	101.8	152.5
構 成 比（%）			
令和2年	100.0	91.4	8.6
<b>3</b>	<b>100.0</b>	<b>87.6</b>	<b>12.4</b>

エ 普通合板生産量

普通合板生産量は317万2千 $m^3$ で、前年に比べ17万3千 $m^3$ （5.8%）増加した。

このうち、針葉樹合板生産量は308万7千 $m^3$ で、前年に比べ19万1千 $m^3$ （6.6%）増加した。

また、厚さ別にみると、「6mm未満」は3万8千 $m^3$ で、前年に比べ1万1千 $m^3$ （22.4%）減少し、「6～12mm」は53万1千 $m^3$ で、同6万9千 $m^3$ （14.9%）、「12～24mm」は139万9千 $m^3$ で、同5万8千 $m^3$ （4.3%）、「24mm以上」は120万4千 $m^3$ で、同5万7千 $m^3$ （5.0%）それぞれ増加した（表14、図11）。

図11 普通合板生産量及び針葉樹合板割合の推移

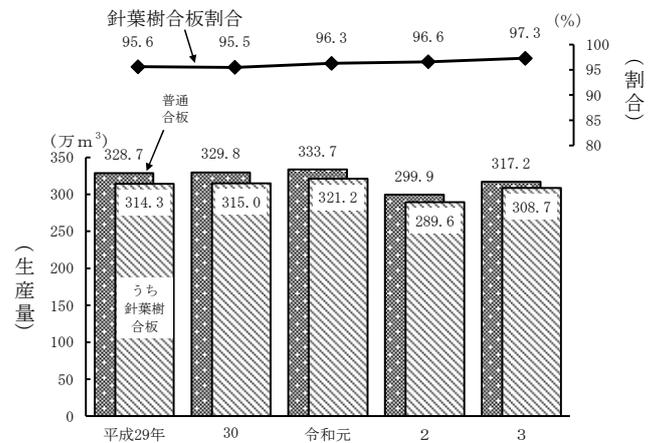


表14 普通合板生産量

区 分	令和2年	3	対前年比	構成比
	千 $m^3$	千 $m^3$	%	%
普通合板生産量	2,999	<b>3,172</b>	105.8	100.0
6mm未満	49	38	77.6	1.2
6～12	462	<b>531</b>	114.9	16.7
12～24	1,341	<b>1,399</b>	104.3	44.1
24mm以上	1,147	<b>1,204</b>	105.0	38.0
うち針葉樹合板	2,896	<b>3,087</b>	106.6	97.3
うち構造用合板	2,670	<b>2,748</b>	102.9	86.6

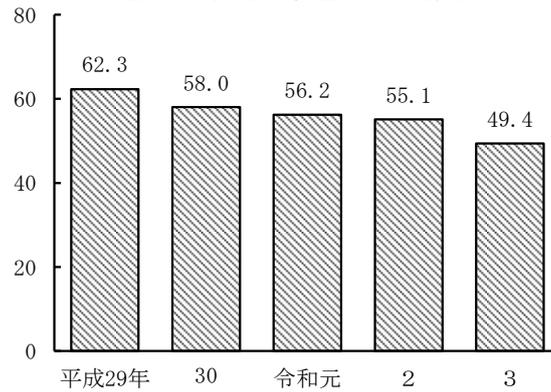
オ 特殊合板生産量

特殊合板生産量は49万4千 $m^3$ で、前年に比べ5万7千 $m^3$ （10.3%）減少した（表15、図12）。

表15 特殊合板生産量

区 分	令和2年	3	対前年比
	千 $m^3$	千 $m^3$	%
特殊合板生産量	551	494	89.7

(万 $m^3$ ) 図12 特殊合板生産量の推移



カ LVL工場数

LVL工場数は15工場で、前年に比べ1工場（7.1%）増加した（表16）。

表16 LVL工場数（各年12月31日現在）

区 分	令和2年	3	対前年比
	工場	工場	%
LVL工場	14	15	107.1

キ LVL生産量

LVL生産量は33万7千 $m^3$ で、前年に比べ13万1千 $m^3$ （63.6%）増加した。

これを用途別にみると、構造用が22万3千 $m^3$ で、前年に比べ11万9千 $m^3$ （114.4%）、その他が14万4千 $m^3$ で、同12千 $m^3$ （11.8%）それぞれ増加した（表17）。

表17 LVL生産量

区 分	単位：千 $m^3$		
	計	構造用	その他
令和2年	206	104	102
3	337	223	114
対前年比 (%)	163.6	214.4	111.8
構成比 (%)			
令和2年	100.0	50.5	49.5
3	100.0	66.2	33.8

### (3) 木材チップ

#### ア 木材チップ工場数

木材チップ工場数は1,082工場で、前年に比べ114工場(9.5%)減少した。

これを専門・兼営区分別にみると、「木材チップ専門工場」は312工場で、前年に比べ24工場(7.1%)、「製材又は合単板工場等との兼営工場」は770工場で、同90工場(10.5%)それぞれ減少した(表18)。

表18 専門・兼営区分別木材チップ工場数  
(各年12月31日現在)

年次	計	単位：工場	
		木材チップ 専門工場	製材又は合単板 工場等との兼営工場
令和2年	1,196	336	860
<b>3</b>	<b>1,082</b>	<b>312</b>	<b>770</b>
対前年比(%)	90.5	92.9	89.5
構成比(%)			
令和2年	100.0	28.1	71.9
<b>3</b>	<b>100.0</b>	<b>28.8</b>	<b>71.2</b>

#### イ 木材チップ用素材入荷量

木材チップ用素材入荷量は434万2千 $m^3$ で、前年に比べ26万9千 $m^3$ (6.6%)増加した。

これを国産材、輸入材別にみると、大部分を占める国産材は432万5千 $m^3$ で、前年に比べ25万3千 $m^3$ (6.2%)増加した(表19、図13)。

図13 木材チップ用素材入荷量の推移

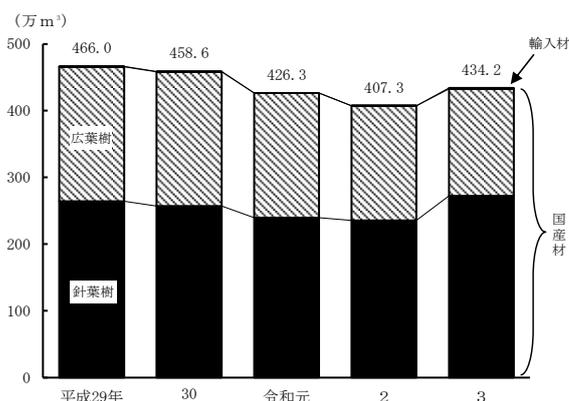


表19 材種別木材チップ用素材入荷量

年次	計	単位：千 $m^3$								
		国産材			輸入材					
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	米材	北洋材	ニューシード材	その他
令和2年	4,073	4,072	2,355	1,717	1	0	0	0	1	-
<b>3</b>	<b>4,342</b>	<b>4,325</b>	<b>2,723</b>	<b>1,602</b>	<b>17</b>	-	5	0	0	12
対前年比(%)	106.6	106.2	115.6	93.3	1,700.0	nc	nc	nc	0.0	nc
構成比(%)										
令和2年	100.0	100.0	57.8	42.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
<b>3</b>	<b>100.0</b>	<b>99.6</b>	<b>62.7</b>	<b>36.9</b>	<b>0.4</b>	-	0.1	0.0	0.0	0.3

注：本調査においては、木材チップ製造用素材入荷量は木材チップ用の素材需要量(素材供給量)としているため一致する。

ウ 木材チップ生産量

木材チップ生産量は607万tで、前年に比べ131万7千t（27.7%）増加した。

これを原材料別にみると、素材(原木)は266万1千tで、前年に比べ54万2千t（25.6%）、工場残材は262万3千tで、同84万4千t（47.4%）、林地残材は7万5千tで、同2万6千t（53.1%）それぞれ増加し、解体材・廃材は71万1千tで、同9万5千t（11.8%）減少した。

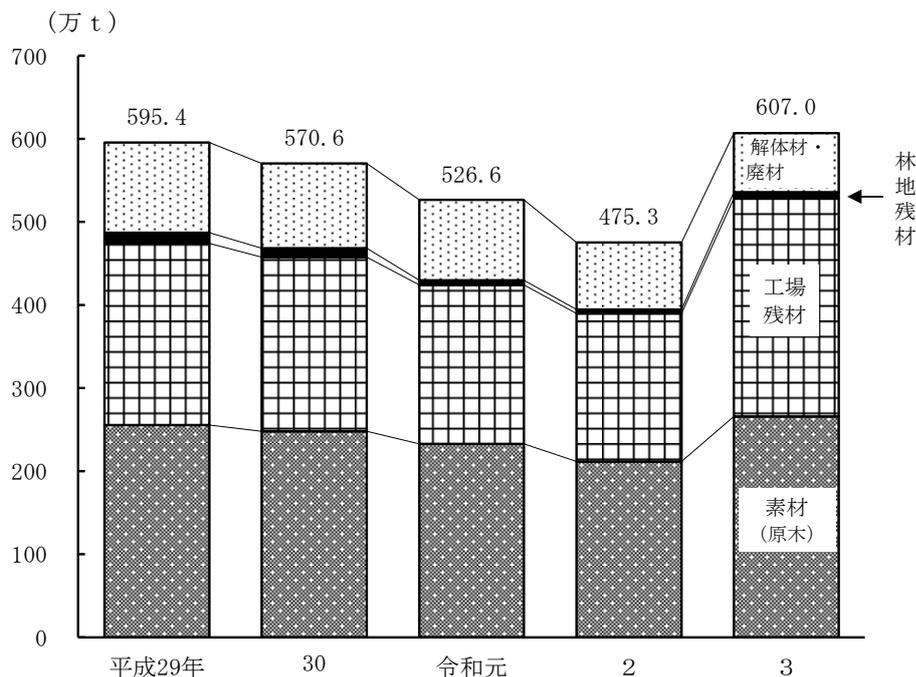
また、針葉樹・広葉樹別にみると、針葉樹は404万5千tで、前年に比べ115万9千t（40.2%）、広葉樹は131万4千tで、同25万3千t（23.8%）それぞれ増加した（表20、図14）。

表20 木材チップ生産量

区 分	令和2年	3	対前年比	構成比
	千t	千t	%	%
木材チップ生産量	4,753	6,070	127.7	100.0
原材料別				
素材（原木）	2,119	2,661	125.6	43.8
工場残材	1,779	2,623	147.4	43.2
林地残材	49	75	153.1	1.2
解体材・廃材	806	711	88.2	11.7
針葉樹・広葉樹別				
針葉樹	2,886	4,045	140.2	-
広葉樹	1,061	1,314	123.8	-

注：針葉樹・広葉樹別には解体材・廃材を含んでいない。

図14 原材料別木材チップ生産量の推移



(4) 集成材及びCLT

ア 集成材及びCLT工場数

集成材工場数は132工場で、前年に比べ16工場（10.8%）減少した。  
CLT工場数は11工場で、前年と同数であった（表21）。

表21 集成材及びCLT工場数  
（各年12月31日現在）

区 分	集成材工場	CLT工場
令和2年	148	11
<b>3</b>	<b>132</b>	<b>11</b>
対前年比（%）	89.2	100.0

イ ラミナ消費量

ラミナ消費量は264万7千 $m^3$ で、前年に比べ22万6千 $m^3$ （9.3%）増加した。  
これを用途別にみると、集成材用は262万5千 $m^3$ で、前年に比べ22万5千 $m^3$ （9.4%）、  
CLT用は2万2千 $m^3$ で、同1千 $m^3$ （4.8%）それぞれ増加した（表22）。

表22 ラミナ消費量

区 分	計	集成材用	CLT用
令和2年	2,421	2,400	21
<b>3</b>	<b>2,647</b>	<b>2,625</b>	<b>22</b>
対前年比（%）	109.3	109.4	104.8
構成比（%）			
令和2年	100.0	99.1	0.9
<b>3</b>	<b>100.0</b>	<b>99.2</b>	<b>0.8</b>

ウ 集成材生産量

集成材生産量は198万2千 $m^3$ で、前年に比べ24万2千 $m^3$ （13.9%）増加した。  
これを用途別にみると、構造用が189万6千 $m^3$ で、前年に比べ22万5千 $m^3$ （13.5%）増加した（表23）。

表23 集成材生産量

区 分	計	構造用				その他
		小計	大断面	中断面	小断面	
令和2年	1,740	1,671	24	896	751	69
<b>3</b>	<b>1,982</b>	<b>1,896</b>	<b>18</b>	<b>894</b>	<b>984</b>	<b>86</b>
対前年比（%）	113.9	113.5	75.0	99.8	131.0	124.6
構成比（%）						
令和2年	100.0	96.0	1.4	51.5	43.2	4.0
<b>3</b>	<b>100.0</b>	<b>95.7</b>	<b>0.9</b>	<b>45.1</b>	<b>49.6</b>	<b>4.3</b>

エ CLT生産量

CLT生産量は1万5千 $m^3$ で、前年に比べ2千 $m^3$  (15.4%) 増加した。

これを用途別にみると構造用が1万4千 $m^3$ で、前年に比べ3千 $m^3$  (27.3%) 増加した (表24)。

表 24 CLT生産量

単位：千 $m^3$

区 分	計	構造用	その他
令和2年	13	11	2
3	15	14	1
対前年比 (%)	115.4	127.3	50.0
構 成 比 (%)			
令和2年	100.0	84.6	15.4
3	100.0	93.3	6.7